

専門実習Ⅱ

更新日：2021/02/25 19:58:33

開講年度	2021	学期	通年	シラバスコード	8821A		
学年	2	曜日/時限		単位数	2.0	科目コード	882100
担当教員	永松美雪, 石山 さゆり, 園田 希						
学部/学科	大学院 修士課程 助産教育コース 助産教育						
備考	必修/選択：選択（助産教育コース必修） 授業形態：実習 領域：助産教育コース						

授業の目的

履修者各自が、それぞれの専門領域の実践力の向上を図るために、実習テーマ・目的を定め、計画を立案し、実施評価までの一連のプロセスを踏む。尚、助産教育コースを受けるものは、分娩・産褥早期の継続事例（新生児を含む）やその家族に対して助産ケアを行い、助産実践力の向上をめざす。

到達目標

1	継続受け持ち事例の分娩、産褥、新生児の助産診断が実施できる
2	受け持ち事例の分娩介助が実施できる
3	入院時の産後ケアが実施できる
4	産後の保健指導案の立案と個別の保健指導が実施できる

DPとの関連

DP6（助産）○

DP7（助産）◎

DP8（助産）○

授業計画

1	<p>授業計画</p> <p>【授業内容】Ⅰ. 目標： 妊娠中に受け持った継続事例の分娩および産褥早期（新生児を含む）の助産診断を行い、必要な助産ケアを展開する。</p> <p>【授業方法】Ⅱ. 方法</p> <p>1. 実習時期 対象の分娩の進行、入院期間に合わせて実習日を設定する。（分娩予定日2月下旬～3月初旬）</p> <p>2. 実習施設 福岡赤十字病院 熊本赤十字病院 宗像セントラルクリニックなど</p> <p>3. 実習の進め方 1) 分娩予定日前に、分娩の初期計画を立案し、産婦の状況に応じて助産診断を修正しながら助産ケアを行う。 2) 分娩終了後、早期に産褥期の助産計画（新生児も含む）を立案し、日々の助産計画を修正しながら助産ケアを行う。 3) 個別指導（授乳、沐浴、退院指導など）を行う前に、必ず指導案を立案し、教員および臨地指導者の指導を受け、実施の許可を得る。</p> <p>Ⅲ. 実習上の留意点 助産ケアの展開においては、エビデンスに基づく実践を心がける。 助産診断をもとに予防的ケアを行い、助産ケアの一貫性、継続性を図る意義などについて考察する。 注）本実習には、受胎調節実地指導員資格を取得するための実習を含む。</p>
---	---

学習方法

妊娠後期から受け持った継続事例と信頼関係を築き、正常に経過するための助産ケアを実施する。新しい家族関係が構築できるための助産師の援助について考察する。

オフィスアワー

木曜日の昼休み、もしくは事前にメール（永松：m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp）（石山：s-ishiyama@jrckicn.ac.jp）（園田：no-sonoda@jrckicn.ac.jp）にてアポイントを取って下さい。

テキスト

指定しない

参考文献

助産学関連の図書、文献など

評価方法

実習評価表（100%）